



姫路工業倶楽部賞

優秀学部生・優秀院生



機械系

吉井さん

沖さん 西山さん



機械系

原田さん (院) 阿佐さん (院)



電気系

谷さん 津吉さん

上口さん 井上さん (院)



物質系

向井さん 山田さん 白木さん

平成26年度 受賞者アンケート (抜粋)

回答(学部：谷、津吉、上口、吉井、山田、白木院・原田、井上 敬称略)

★姫路工業倶楽部賞という賞があることを知ったのはいつでしょうか。知った後に、受賞に向け何か行いましたか。

山田 研究室配属が決まった当初に先輩方に教えていただきました。受賞に向けて、特に意識していなかったですが、研究を自分のものにしていうと実験や発表にはしっかりと取り組めました。

吉井 卒論制作の時期になり、自分の研究を発表に向けて作り上げるときに、先輩方から賞を狙えるぞと聞いていただったので改めて賞のことを意識しました。受賞に向けて行なったことは、自分の研究をいかに他人に分かりやすく伝えるかということでした。発表に使うパワーポイントや発表内容は何度も添削し、練習を重ねました。また、その中で先生や先輩方に様々なアドバイスをいただくことができたことでさらに自分の考えが纏まっていったこともとてもよかったです。

井上 何事も中途半端が一番面白くないと社会人になってから感じています。面白みのある人間になれるよう、トコトコ取り組むことができるのが大学時代だと思います。学業、研究、スポーツ、旅行、留学、アルバイト、社会に出るときに魅力がある人間になれるように今を楽しんで頂ければと思います。取り敢えず、一発芸の一つでも会社に入る前に用意しておいてはいいかなと思います。

原田 大学、大学院での経験は必ず将来の自分にとって貴重な経験になると思います。勉強や研究を常に楽しめたら一番良いと思いますが、辛かったり、困難な課題があっても一生懸命に取り組んでください。一生懸命に取り組んだら、必ず大学の先生方や姫路工業倶楽部の方々に評価して頂けると思います。

★今後、注力したいこと、将来の目標

谷 現在、未来のエネルギー源として期待されている”核融合発電”の実用化を目指して国立研究機関と共同研究を行っています。この発電の実用化にはあと数十年かかると言われていますが、今後、さらに研究を進めて早期の実用化に貢献したい。

津吉 漠然としています。研究職に就き、今大学院で研究している分野について、やりたいと考えています。また、研究のみに注力することはないようしていきたいと思っています。

上口 卒業後、本学の大学院に進学したので、今進めている研究を成就させようと考えています。

山田 学会や講習会などに積極的に参加し、自分のスキルを磨くことや知識増やすことです。そうした中で、他人とのコミュニケーション能力を高めていければいいと考えています。

井上 将来の目標、夢は大きく。定年までに年収1000万円。技術職は何年経っても知識や技術の進歩が必要とされる職種だと思います。自身も楽しんで仕事に励めるよう、常に知識に貪欲にいられる技術者でいければと思っています。

上口 賞を知ったのは、3回生後期頃でした。ただ、特別なことはしませんでした。

原田 大学院の修士論文公聴会の一ヶ月前(平成27年1月)ぐらいに知りました。専門でない方にも発表内容を理解していただけるように、修士論文公聴会の発表スライドをそのまま使用せず、しっかりとスライド内容を練り直しました。

★受賞時の感想(学部)

上口 正直なところ、賞をもらえとは思っていなかったのですが驚きました。

白木 表彰状や副賞を頂いたことは大変嬉しく思いました。ただ、それ以上に卒業までにお世話になった両親や友人、先生方に対する感謝の気持ちが湧きました。

谷 優秀な学生が多い中で、自分を評価して頂き有り難く感じました。

★評価された点は何だと思いませんか。

津吉 サークル活動(陸上同好会)と両立していた点だと思います。毎日のように練習を行いながら、その中でいかに勉強するかということには

するだけの学習ではなく、自主体で問題を解決する経験ができたのはとても良かったです。

山田 特定の分野だけに絞らずに、幅広い知識が得られたことは良かったことです。さらに今までどこで生かされているのか分からなかった数学などの理系科目について、実際に大学という場で学んでみると意外にも自分たちの身近に使われているものが多いことが分かりました。

原田 大学、大学院で受けた講義の内容が、現在の仕事に活かされていることも多いですが、一番良かったと思える経験は研究室での経験です。研究室では、社会に出る準備として研究(仕事)の進め方、プレゼンテーション能力、「ホウ」「レン」「ソウ」の習慣、報告書の作成など、多くのことを学びました。これらの経験が、現在の仕事に活かされていると感じています。

★先輩へのアドバイス

谷 人脈(友達、先輩、先生)を広げること、時間の使い方を考えること、よく寝て、よく遊ぶこと

白木 大学の4年間という

のは人生のほんの一部でしかありません。ただ、これまでの経験したことが無いほど、多くの人や物に触れられるチャンスに満ちている期間でもあります。だから、先輩の皆さんには新しい挑戦に対して躊躇しないで欲しいです。失敗や変化を恐れて、何も成し遂げられないのはすごく勿体無いと思います。大学生活は、短い人生のさらに短い期間ですが、あなたを成長させるには充分な期間です。あなたが今後の人生を生きていく上で、役立つ力が大学生活の中

津吉 月並みなことかもしれませんが、地道にコツコツ頑張ることが大事だと思います。

山田 大学の4年間の中で、自分と他の分野に進んだ人との知識差がどれだけ生まれるかを考えると差はほとんどありません。これはベースが違っても同じことです。大学時代という自由な時間の中で自分にプラスになる知識をどれだけ吸収できるか、それを広げていけるかだと思います。豊かな人生は知的活動からな

★学んで良かったこと

谷 大量の課題や実験レポートを通して、「効率的な時間の使い方」を考える癖を身に付けることができて良かったです。

上口 自分が興味を持った分野について詳しく学べることが良かったと思います。

吉井 自分で問題を発見し、それを解決するために何が必要であるのかというプロセスを何回も味わえたことです。吸収

力を注いでいました。

井上 候補に挙がった方々は全員とても素晴らしい成果を挙げていらつしやいました。他の方々が研究データ、数値、グラフなど、専門家にしかわからない専門的な部分を重点的に説明していた中で自身の研究が何に生かされ、将来的にどのような製品となるのかを分かり易く説明した点だと思っております。

吉井 意識していた分かなりやすく伝えるということが評価されたのではないかと思います。また発表を見ていただいた人に楽しそうに話すと言っていただけだったので、そのような雰囲気も評価していただけたのかも知れません。

白木 表面上は授業の成績です。しかし、私自身の中では、学問に対して真摯に向き合った姿勢を評価されて受賞者に選ばれたのだと思っています。

原田 専門でない方にも発表内容を理解して頂いた点と、質疑応答での対応を評価して頂いたと感じております。